

## 10 大幅減となった輸出・輸入

### (貿易をとりまく世界経済の状況)

アメリカでは、2009年に大規模な景気刺激策と金融システム安定化策が功を奏したことなどから、景気が緩やかに回復してきた。しかし、09年前半の落ち込みにより、09年の経済成長率は-2.6%となった。また、EUでは、08年9月の世界金融危機発生後、景気後退の深刻さを増していたが、自動車買換え支援策等の政策効果もあり、09年春に景気の最悪期を脱した。アジアや新興国では、世界各国の景気刺激策と内需の成長により日本を始め世界の景気を索引した。特に中国では、内需を中心とした景気対策により急速に回復したことにより、資源価格の回復に大きな影響を与えた。

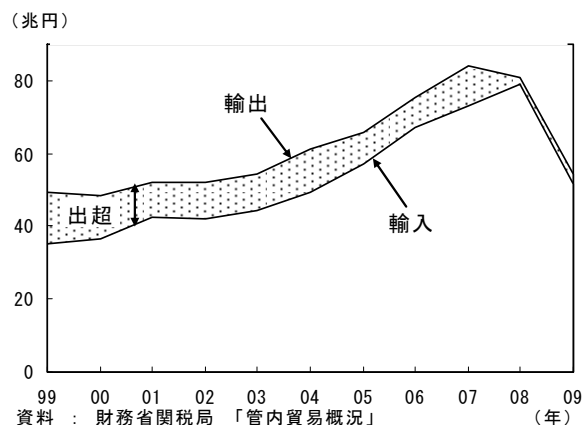
一方、アメリカやEUの金融不安から、為替レートはドルやユーロ安となり、相対的に安定していた円が上昇した。対ドルの円相場は08年103.37円から09年93.54円に、対ユーロの円相場は08年152.49円から09年130.34円となった。

### (全国の貿易概況)

2009年のわが国の経済は、08年のリーマンショック後に急速な景気悪化に陥ったが、09年春頃には景気は持ち直してきた。企業部門は、急速かつ大幅な在庫調整の反動もあって、鉱工業生産の持ち直しのテンポが速かった。家計部門は、個人消費が景気の悪化局面で減少を続けていたが、持ち直し局面に入ってから、増加に転じた。こうした背景の下、09年のわが国の貿易は、輸出額は自動車、半導体等電子部品などが減少し、前年比33.1%減となった。また、輸入額は原油及び粗油、石油ガス類などが大幅に減少したことから、前年比34.8%減となった。この結果、輸出入総額の差引額は前年より29.5%増となった。

なお、円高などの影響により、08年に6.1%低下した輸出物価指数(円ベース)は、09年も10.5%低下し、2年連続の低下となった。また、輸入物価指数(円ベース)は、原油価格の高騰などの影響を受け、08年は8.8%上昇したが、09年は円高により25.3%低下した(図表10-1)。

図表10-1 全国貿易額の推移

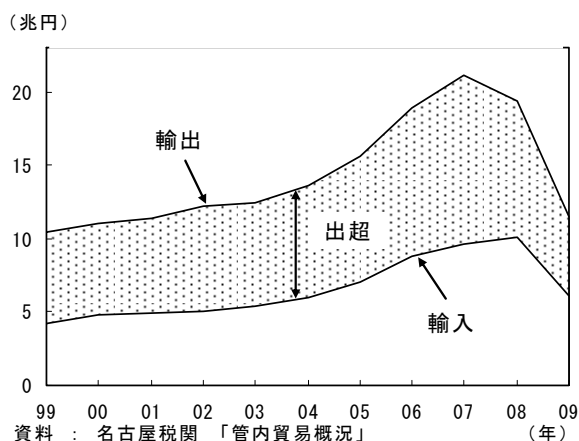


### (名古屋税関管内の貿易概況)

このような状況の中で、名古屋税関管内の貿易額等の動向についてみると、2009年は自動車及び同部品の輸出が大きく減少し、輸出額は前年比40.7%減の11兆4613億円となった。税関別順位は、昨年まで4年連続1位であったが、成田空港、東京港を含む東京税関に次ぐ2位となり、輸出の減少率は全国を上回ったことから、全国シェアは前年の23.8%から21.2%に低下した。輸入額は6兆830億円に減少し、輸入額の全国シェアは前年の12.8%から11.8%に下がった。この結果、輸出、輸入を合わせた貿易額の全国シェアは前年の18.4%から16.6%に低下した。

一方、輸出と輸入の差引額は5兆3783億円(前年9兆2384億円)の黒字(輸出超過)となった。全国の貿易黒字額(黒字税関計)に占める割合は、前年の74.5%から59.5%となった(図表10-2)。

図表10-2 管内貿易額の推移



**(2年連続で減少した輸出)**

2009年の管内輸出についてみると、景気の悪化により、輸出総額は前年比40.7%減の11兆4613億円となり、2年連続の減少となった。

管内の輸出先を主要地域(国)別にみると、アジア向けは、自動車、鉄鋼、金属加工機械、半導体等電子部品などが減少したことから、同28.7%減と2年連続の減少となった。うち中国向けは、音響・映像機器の部分品、金属加工機械、半導体等電子部品などが減少し、同21.1%減と2年連続の減少となった。アメリカ向けは、自動車、自動車の部分品、金属加工機械などが減少したことから同45.5%減となり、3年連続の減少となった。EU向けは、自動車、自動車の部分品、金属加工機械などが減少したことから、同43.5%減と2年連続の減少となった。中東向けは、自動車、建設用・鉱山用機械、映像機器、自動車の部分品などが減少したことから、同43.9%減と10年ぶりの減少となった。

この結果、管内の輸出先の構成比は、アジア36.9%、うち中国14.7%、アメリカ24.1%、EU15.4%、中東6.9%、その他16.7%となり、アジア(中国含む)のシェアが拡大し、アメリカ、EU、中東が縮小した。

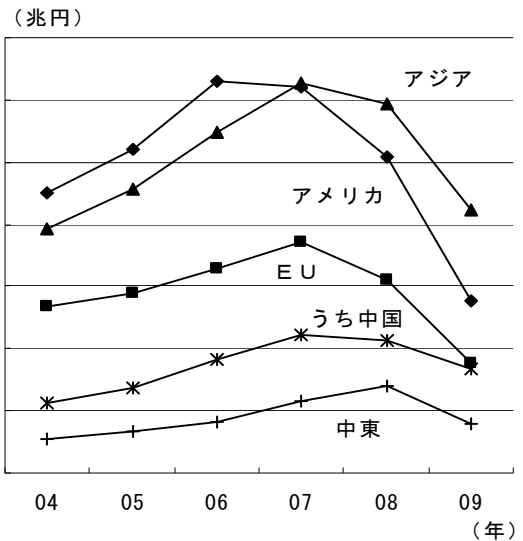
**図表10-3 主要地域(国)別管内輸出額対前年増減率の推移**

(単位：%)

年	アメリカ	アジア	うち中国	EU	中東
04	0.2	17.6	25.3	12.9	3.8
05	15.5	16.3	20.1	5.7	22.7
06	20.8	19.6	33.7	14.0	20.7
07	-1.4	14.8	21.9	12.1	44.3
08	-18.4	-5.4	-4.0	-16.0	20.3
09	-45.5	-28.7	-21.1	-43.5	-43.9

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

**図表10-4 主要地域(国)別管内輸出額の推移**



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

次に、主要品目別の動向をみると、自動車は、世界的な消費の落ち込みや円高の影響から大きな打撃を受け、輸出台数は204万台で前年比46.4%減、輸出額は3兆4144億円で同51.7%減と2年連続の減少となった。自動車の最大の輸出先であるアメリカ向けは、1兆2481億円で同51.8%減、EU向けは、4917億円で同43.3%減、アジア向けは、2258億円で同36.5%減とそれぞれ減少した。なお、09年の管内の自動車輸出額は、全国の自動車輸出額の51.0% (前年51.5%) を占めている。自動車の部分品は、海外における自動車の生産の減少などから、同23.4%減の1兆3503億円となった。このうちアメリカ向けは2710億円で同35.2%減、アジア向けは6059億円で同6.9%減、EU向けは1925億円で同40.7%減とそれぞれ減少した。ガソリンエンジンや船外機などの原動機は、アジア向けが同21.9%減、アメリカ向け同48.2%減、EU向け同39.4%減となり、全体では5243億円で同35.9%減となった。鉄鋼は、EU向け同47.3%減、アジア向け同33.8%減、アメリカ向け同39.0%減となり、全体では3052億円で同34.9%減となった。半導体等電子部品は、EU向け同18.4%減、アジア向け同36.5%減、アメリカ向け同27.9%減となり、全体では2928億円で同31.6%減となった(図表10-3、10-4、10-5、10-6)。

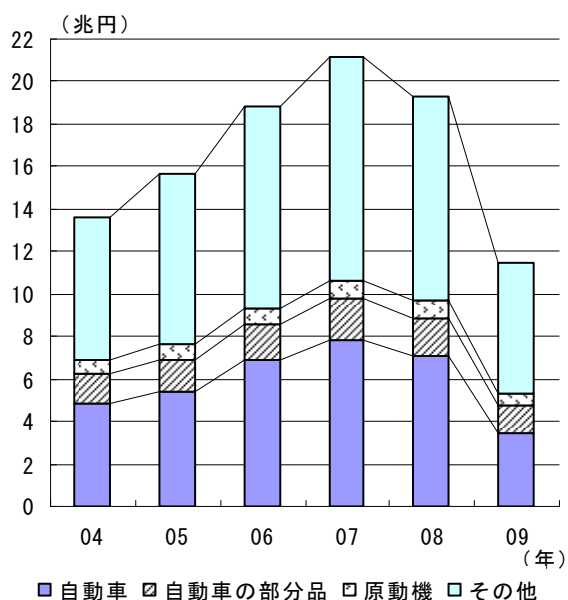
図表10-5 管内輸出主要品目の動向

(単位：百万円、%)

順位	品名	2009年			前年 順位
		金額	対前年増減率	構成比	
1	自動車	3,414,445	-51.7	29.8	1
2	自動車の部分品	1,350,306	-23.4	11.8	2
3	原動機	524,250	-35.9	4.6	3
4	鉄鋼	305,157	-34.9	2.7	5
5	半導体等電子部品	292,768	-31.6	2.6	7
	輸出総額	11,461,283	-40.7	100.0	

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-6 主要品目別管内輸出額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

(10年ぶりの減少となった輸入)

2009年の管内輸入についてみると、輸入総額は6兆830億円となり、前年比39.7%減で10年ぶりの減少となった。

管内輸入額の主要地域(国)別内訳をみると、アジアは、石油ガス類、原油及び粗油、絶縁電線及び絶縁ケーブル、鉄鋼などが減少し、同35.5%減と2年連続で減少した。うち中国は、鉄鋼、絶縁電線及び絶縁ケーブル、無機化合物などが減少し、同27.9%減と2年連続の減少となった。中東は、主要品目である原油及び粗油、石油ガス類、石油製品などが大

幅に減少し、同49.7%減と7年ぶりの減少となった。EUは、自動車、原動機、自動車の部分品などが減少し、同27.4%減と2年連続の減少となった。アメリカは、とうもろこし、その他の化学製品、小麦及びメスリン、航空機類などが減少したことから、同38.7%減と、5年ぶりの減少となった。その結果、管内輸入地域(国)の構成比は、アジア48.0%、うち中国23.1%、中東21.0%、EU10.4%、アメリカ8.3%、その他12.3%となり、アジア(中国含む)、アメリカ、EUのシェアが拡大し、中東が縮小した。

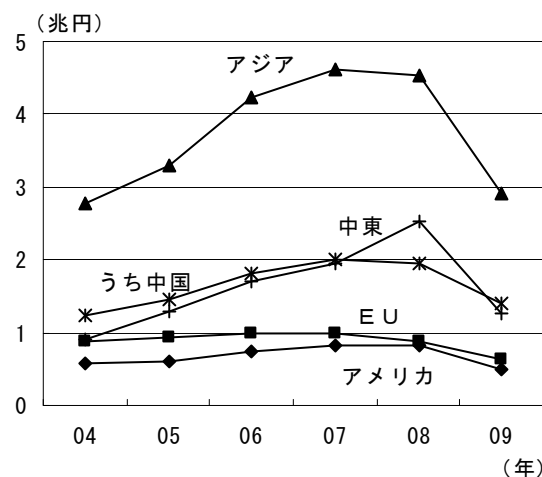
図表10-7 主要地域(国)別管内輸入額対前年増減率の推移

(単位：%)

年	アジア	うち中国	中東	EU	アメリカ
04	12.4	15.2	14.4	13.4	-5.4
05	19.0	18.2	41.4	4.8	5.5
06	28.0	24.2	31.5	7.0	21.9
07	9.4	11.1	14.5	0.1	8.7
08	-1.9	-3.0	30.2	-12.0	1.7
09	-35.5	-27.9	-49.7	-27.4	-38.7

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-8 主要地域(国)別管内輸入額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

次に、主要品目別の動向をみると、原油及び粗油は、数量が前年比14.3%減と減少したことに加え、1バレルあたりの取引価格(平均通関価格)が前年の103.77ドルから59.51ドルと下降したことにより、輸入額は同55.9%減の8572億円となった。増減寄与度では△10.8%となり、輸入減少額に占める寄与率

は27.2%となった。石油ガス類は、数量が同5.6%減となり、輸入額は同41.2%減の6916億円となった。衣類及び同付属品の輸入額は9.3%減の2829億円となった。自動車は、輸入台数は9万台で同32.1%減、輸入額は2303億円で同34.5%減となった。

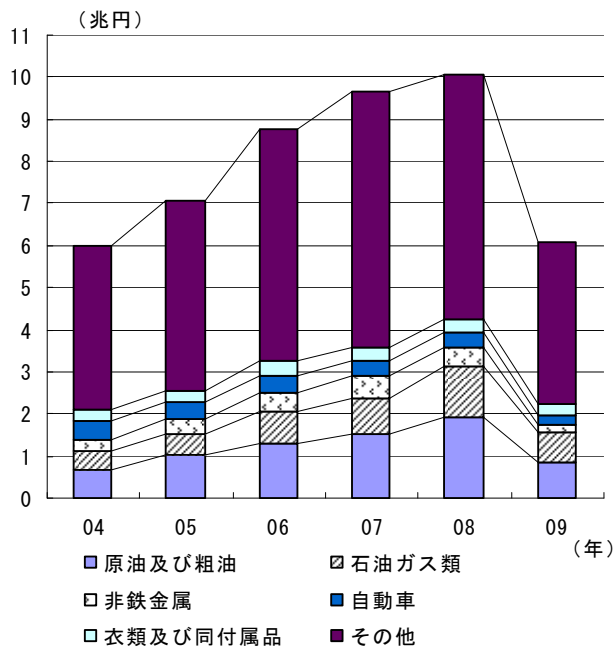
図表10-9 管内輸入主要品の動向

(単位：百万円、%)

順位	品名	2009年			前年 順位
		金額	対前年増減率	構成比	
1	原油及び粗油	857,203	-55.9	14.1	1
2	石油ガス類	691,642	-41.2	11.4	2
3	衣類及び同付属品	282,921	-9.3	4.7	5
4	自動車	230,337	-34.5	3.8	4
5	有機化合物	184,984	-9.3	3.0	8
輸入総額		6,082,990	-39.7	100.0	

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

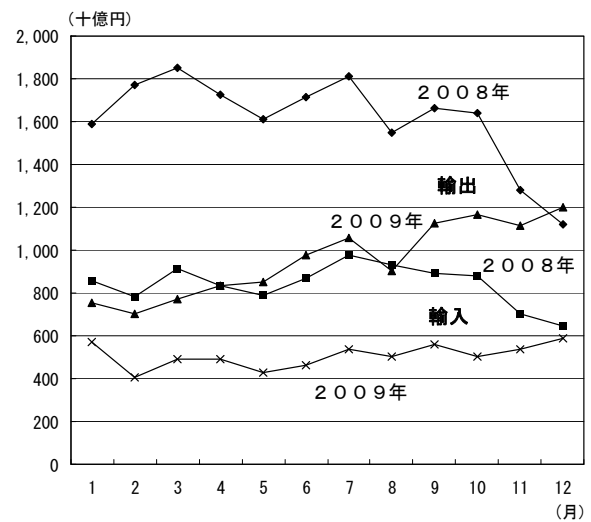
図表10-10 主要品目別管内輸入額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

なお、管内の月別輸出額、輸入額の推移をみると、輸出額は、08年9月のリーマンショックの影響により、09年前半は前年同月を大幅に下回っていたが、少しずつ増加し、12月に前年同月を上回った。輸入額は、リーマンショック後、原油価格の下落などから前年同月を下回っていたが、緩やかに持ち直し、12月に前年同月との差が小さくなった(図表10-7、10-8、10-9、10-10、10-11)。

図表10-11 管内貿易額の月別推移

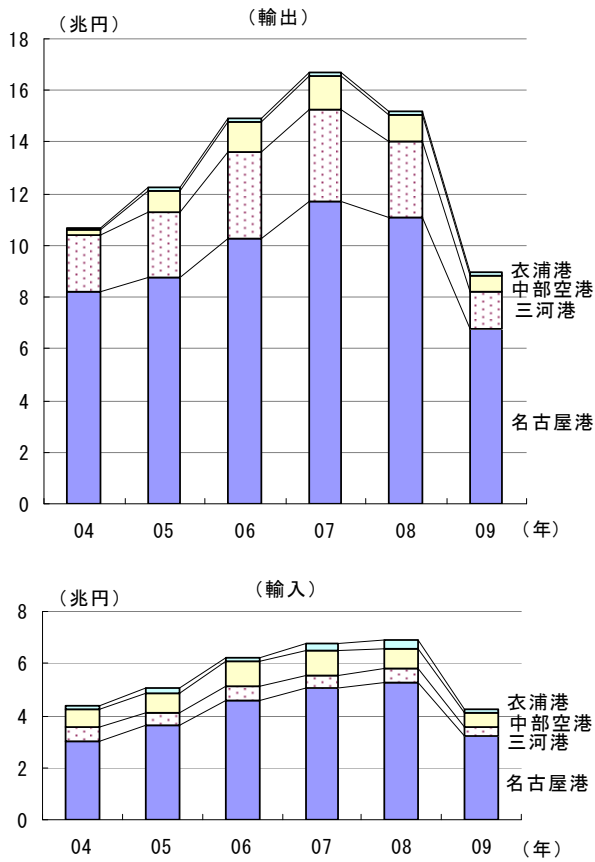


資料：名古屋税関「管内貿易概況」

#### (県内各港の輸出額、輸入額はともに減少)

管内貿易港10港のうち、県内には名古屋港、三河港、中部国際空港、衣浦港の4港がある。2009年の輸出額は、4港合計で前年比41.2%減の8兆9433億円となった。貿易港別にみると、輸出額は、最大港の名古屋港で自動車、金属加工機械、自動車の部分品などの輸出が減少したことから2年連続の減少となり、また05年2月に開港し、名古屋空港時代より大きく輸出額を伸ばした中部空港も同37.8%減となるなど、4港とも減少した。輸入額は、有機化合物、航空機類などは増加したものの、原油及び粗油、石油ガス類、アルミニウム及び同合金などが減少し、同38.0%減の4269億円となり、10年ぶりに減少した。

図表10-12 県内港の貿易額の推移



県内最大貿易港である名古屋港の輸出額は6兆7665億円で前年比38.9%減と2年連続の減少となった。輸入額は3兆2109億円で同39.2%減となった。名古屋港の09年の輸出品では、輸出額全体の41.3%を占める自動車と自動車の部分品、ほかに原動機などが減少した。輸入品は、石油ガス類、原油及び粗油、非鉄金属などが減少した。

なお、名古屋港は国内5大港（東京港、横浜港、名古屋港、大阪港、神戸港）の一つで、09年の輸出額は、海港では11年連続でトップとなり、わが国輸出額の12.5%を占めている。また輸入額は、海港では東京港、大阪港に次いで第3位となり、わが国輸入額の6.2%を占めている。

図表10-13 県内港・国内五大港・主要空港の貿易額 (2009年)

輸出 (単位：億円, %)				
順位	港名	輸出額	対前年増減率	全国比
1	成田空港	82,967	-26.0	15.3
2	名古屋港	67,665	-38.9	12.5
3	横浜港	55,080	-36.7	10.2
4	神戸港	42,402	-30.6	7.8
5	東京港	36,455	-32.1	6.7
6	関西空港	36,051	-22.2	6.7
7	大阪港	26,767	-23.3	4.9
8	三河港	14,127	-51.9	2.6
16	中部空港	6,360	-37.8	1.2
46	衣浦港	1,280	-22.4	0.2
全国計		541,706	-33.1	100.0
県内港計		89,433	-41.2	16.5

輸入 (単位：億円, %)				
順位	港名	輸入額	対前年増減率	全国比
1	成田空港	84,920	-25.3	16.5
2	東京港	66,500	-17.0	12.9
3	大阪港	32,693	-20.9	6.3
4	名古屋港	32,109	-39.2	6.2
5	横浜港	27,439	-36.2	5.3
7	関西空港	23,356	-17.2	4.5
8	神戸港	22,469	-26.9	4.4
18	中部空港	5,794	-26.4	1.1
27	三河港	3,163	-37.1	0.6
42	衣浦港	1,620	-49.2	0.3
全国計		514,994	-34.8	100.0
県内港計		42,687	-38.0	8.3

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-14 名古屋港貿易額の主要品目別・国別 対前年増減率・構成比 (2009年)

品目別 (単位：%)					
輸出			輸入		
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
自動車	-49.8	26.1	石油ガス類	-44.1	11.3
自動車の部分品	-23.0	15.2	衣類及び同付属品	-8.4	8.0
原動機	-27.8	5.6	原油及び粗油	-57.7	7.7
鉄鋼	-35.7	3.1	非鉄金属	-61.7	5.1
事務用機器	-37.5	3.1	織物用糸及び繊維製品	-20.6	3.0

国別 (単位：%)					
輸出			輸入		
国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
中国	-15.9	17.1	中国	-27.0	34.1
アメリカ	-36.6	14.7	アメリカ	-42.0	8.7
タイ	-39.2	5.2	サウジアラビア	-43.3	6.4
オーストラリア	-34.4	5.1	カタール	-41.6	5.0
台湾	-31.8	3.5	インドネシア	-42.2	5.0

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

名古屋港に次いで輸出額の多い三河港は、2009年の輸出額が前年比51.9%減の1兆4127億円となった。三河港の輸出総額の92.4%が自動車であり、また、輸出先はアメリカが78.2%を占めているが、鉄鋼のくず、中国が増加した。

一方、輸入額は同37.1%減の3163億円となった。輸入総額のうち自動車が70.1%を占め、また、主な輸入元はドイツ、韓国、中国などとなっている。なお、三河港の自動車輸入額は、全国の48.7%を占めている。

図表 10-15 三河港貿易額の主要品目別・国別  
対前年増減率・構成比 (2009年)

品目別 輸出		輸入 (単位：%)			
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
自動車	-53.5	92.4	自動車	-34.8	70.1
船舶類	-0.8	2.0	鉄鋼のフラットロール製品	-35.3	5.1
鉄鋼のくず	49.2	1.2	絶縁電線及び絶縁ケーブル	-34.6	2.3

国別 輸出		輸入 (単位：%)			
国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
アメリカ	-51.9	78.2	ドイツ	-16.0	48.6
カナダ	-53.4	6.4	韓国	-20.7	9.4
中国	40.3	3.4	中国	-43.7	6.0

資料：財務省「貿易統計」

中部空港の09年の輸出額は、前年比37.8%減の6360億円、輸入額は同26.4%減の5794億円となり、輸出入総額では同32.8%減の1兆2154億円となった。主な輸出品では、映像機器が増加し、主な輸入品では、有機化合物、航空機類が増加し、輸入元ではアイルランドなどが増加した。

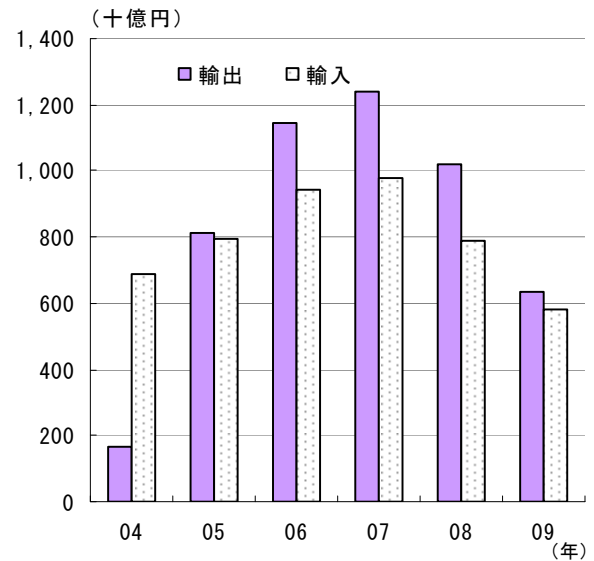
図表 10-16 中部空港貿易額の主要品目別・国別  
対前年増減率・構成比 (2009年)

品目別 輸出		輸入 (単位：%)			
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
半導体等電子部品	-36.6	26.2	有機化合物	25.0	18.6
映像機器	14.2	10.6	医薬品	-7.7	10.6
電気回路等の機器	-37.3	6.1	航空機類	29.4	6.4
科学光学機器	-64.4	4.4	音響・映像機器(含部品)	-43.7	5.6

国別 輸出		輸入 (単位：%)			
国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
中国	-54.6	19.9	アメリカ	-10.4	18.1
アメリカ	-35.9	13.1	中国	-24.5	17.4
マレーシア	-34.8	10.1	アイルランド	32.0	9.9
韓国	-31.3	6.7	プエルトリコ	8.7	9.1

資料：財務省「貿易統計」

図表 10-17 名古屋空港～中部空港 貿易額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

衣浦港の09年の輸出額は、前年比22.4%減の1280億円、輸入額は同49.2%減の1620億円となり、輸出入総額では同40.0%減の2900億円となった。主な輸出品では、航空機類、鉄鋼のフラットロール製品が増加し、また、主な輸入品では、石炭などが減少し、輸入元ではオーストラリアが1/4を占めている(図表 10-12、10-13、10-14、10-15、10-16、10-17、10-18)。

図表 10-18 衣浦港貿易額の主要品目別・国別  
対前年増減率・構成比 (2009年)

品目別 輸出		輸入 (単位：%)			
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
管及び管用継手	-35.8	52.0	石炭	-47.7	41.4
航空機類	38.0	18.9	とうもろこし	-44.4	17.5
鉄鋼のくず	-10.0	13.4	石油ガス類	-51.7	16.2
鉄鋼のフラットロール製品	97.2	7.9	パルプウッド等	-12.6	5.3

国別 輸出		輸入 (単位：%)			
国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
アメリカ	-3.8	34.1	オーストラリア	-42.5	26.3
韓国	-10.4	20.7	アメリカ	-51.1	20.3
中国	-15.7	15.2	インドネシア	-44.4	19.3
シンガポール	-28.7	4.1	サウジアラビア	-21.1	5.7

資料：財務省「貿易統計」